

138 糸満マギー（八）（帆柱）

顔形も良くて、山原に行つてですね、漁業やつてゐるのに、村の娘たちがくつつくもんだから、ほかの、向こうの青年連中が吝気みたいなのをやつて、この人をやつつけようといつて来た時ですね。この人、逃げ行つても追い詰められたら、船の帆柱に腰掛けて待つていたらしい。

それを、一人の年寄りが見て、

「お前たち、向こうへ行つたら死ぬんだよ。あれが腰掛けてゐる帆柱はこの人の武器だから」と言つたらです、それなら、

「そんなことあるかなあ。こんな帆柱を振り回すような人間がいるか」というのを、その年寄りが行つて、その人に声をかけた。

「お前が持つてゐるのはこれ、武器だろう」と言うたらですね、

「私ももうどうにもならん時は、これでやります」と

言つて、この帆柱を振り回して見せたもんだから、その連中はもう、驚いて逃げたという話もあったんですが。

字糸満 上原亀吉

類話

字糸満 田場天龍、大城英次、稻嶺盛亀

字宇江城 照屋寛吉

字名城 新垣武登